

第7回広島県公立大学法人評価委員会議事要録

- 1 日 時 平成20年7月15日(火) 13:30~15:45
- 2 場 所 広島県庁北館2階第3会議室
- 3 出席委員 松坂委員, 古賀委員, 松井委員, 谷委員
- 4 議 題 (1) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務実績報告及び財務諸表について
(2) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務実績評価原案について
(3) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度財務諸表に関する意見(案)について
- 5 担当部署 広島県環境県民局総務管理部学事課大学管理グループ
TEL (082) 228-2111 (内線2752)
- 6 会議の内容

(1) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務実績報告及び財務諸表について

法人理事長から平成19年度の業務実績について、次のとおり報告があった。

- ア 科研費の採択件数は、中国四国地区及び九州地区でトップクラスである。
- イ 外部資金の獲得については、庄原キャンパスを筆頭に努力している。
- ウ 学習環境の整備が進んでおり、図書館の一人当たり貸出件数が全大学中6位、受入冊数が全大学中7位である。
- エ 教員一人当たりの学生数は、国立大学並みである。教員一人当たりの学生数が比較的少ないことから、卒業論文を全学部で必修とし、きめ細かな指導ができています。
- オ 現代GPが新規に1件採択となった。昨年度に採択となった現代GPについては、少人数教育のメリットを生かして、インターンシップを人手をかけながら上手く実施できた。
- カ 包括的連携協力協定を4団体と締結した。
- キ 公開講座の受講生は毎年増加しており、平成19年度については7千人に達した。
- ク 西安交通大学と国際交流協定を締結し、シンポジウムを実施した。
- ケ 入試の志願倍率は、2.5倍であった。志願倍率が低い学部があるが、高校訪問を積極的に実施して、志願倍率を向上できるよう努力している。
- コ 学生の就職率は、97.4%であり、妥当な水準にある。

法人から平成19年度財務諸表について、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書及び行政サービス実施コスト計算書について内容説明があった。

また、利益処分に関する書類(案)について、当期総利益3億9,000万円から、前払費用など会計ルールに起因する利益を積立金として控除した残額を目的積立金とする申請を県に対して行ったとの説明があった。

なお、利益の主な発生要因は、自己収入の増、人件費等の経費節減によるものであるとの説明があった。

【質疑応答】

- ・ 今後、学部学科の新設を考えておられるのか。

(理事長回答)

⇒人々の生活、文化の理解、経済の活性化、環境の保護といった分野について、現状でひととおり学部学科は揃い、対応できていると考えている。教養教育を県内で共同してやってみたいという思いはあり、また、外国語で全講義を実施するようなコースをつくってみたい。教養教育、公開講座等で大学間の部分連携を進め、全体として強い大きな大学になるというような方向を目指してみたいと思っている。

- ・ 経済界から、県東部に、ものづくりの学部が必要ではないかという意見があるが、どう思われるか。

(理事長回答)

⇒起業者の割合が高い県東部には関心をもっており、サテライトを置けないかと思っている。

- ・ 公開講座については、受講生の数より内容の充実が今後の課題であると聞いているが、県内の生涯教育を支える県立広島大学のあり方として、どういうお考えをお持ちか。

(理事長回答)

⇒大学間で連携して公開講座を実施してみたいと考えている。また、科目等履修生の制度は、充実した学習ができるものなので、外部に十分宣伝したいと思っている。

- ・ 当期総利益の発生要因の説明の中で、人件費の節減があったが、今後も教員数を減らしていくお考えなのか。

(理事長回答)

⇒学生定員を増やした方がいいのではないかと考えている学部もあるが、私学との競合もあり難しいと思う。科目等履修生、聴講生等の受入を増やし、教育の効率を高める方向で考えている。

- ・ 広島県全体に対しての社会的貢献という観点から、フラッグ・ユニバーシティとしての存在意義を、例えばコンソーシアムで発揮するというお考えはないか。

(理事長回答)

⇒県内には学部が少ない大学が多いので、束ねて総合大学にしてはどうかと思い、働きかけは行っているが、実現に至っていない。まずは、公開講座を共同で実施できないかと思っている。

- ・ 県立広島大学は、教員免許更新講習会の実施について社会的な責務を負っていると考えているが、今後どのように貢献されるお考えか。

(理事長回答)

⇒社会的責任を感じており，コンソーシアムに対する貢献度を上げるという意味からも，コンソーシアムと協力しながら実施してみたいと思っている。

- ・ 公立大学の事務職員は，県のゼネラリストとして養成されていることから，頻繁に人事異動があるが，大学の事務職員の専門性を高める必要性について，どのようにお考えか。

(理事長回答)

⇒今後はプロパー職員を増やす方向であり，県派遣職員に対してプロパー職員の割合をどこまで高めるかという点を検討しなければならないが，図書館司書や入試担当のように専門性の高い業務については配慮したい。

- ・ 自己点検をして課題と考えられた事項を報告いただき，総じて順調であることは分かったが，次のステップを考えたときに，今後，力点を置いていかなければならないと思われる課題は何か。

(理事長回答)

⇒科研費の採択件数，現代G P，公開講座の受講生数といった成果は，外部から見たときのものである。実際に学生にどれだけの力をつけさせて，どれだけ人間として立派に育てられたかが一番大事だと思っている。

- ・ 評価委員会としては，支援的，発展的に大学の教職員がやる気を持つような評価を行いたいと思っている。初年度ということもあり，外形的な部分，プロセス的な部分が多くなるのは当然だと思うが，今後は質的な問題，変容の度合いが課題となってくる。評価の本質は，PDCサイクルを回して改善に寄与することにあるから，次のステップに向けてどれだけ変容したかという点に留意して，次年度以降の報告をお願いしたい。

(2) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務実績評価原案について

事務局から，資料3により，評価原案の総合評価，項目別評価の内容について説明があり，全体評価としては「年度計画は順調に実施された」と判断されるとの素案が示された。委員からは次のとおり意見が出された。

【委員意見】

- ・ 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムについては，学校教育を一步進めて，新しい仕事を得る支援をするという点に意味がある。社会が必要としている資格に向けて学習させるという，今までの県立広島大学にない新しい支援策として打ち出されたものなので，初年度に評価を行っておくべきだと思う。これからも継続的に講座を提供してほしいという期待も込めて。
- ・ 総合評価の部分に，県立広島大学の個性的な方向づくりという言葉が出てこないの

で、その趣旨の表現を書き入れてはどうか。理事長のリーダーシップは、経営面でのみ評価されるべきではなく、この委員会で当初議論された、教養ある人材を育成する教育の実践といったことも含めるべきだと思う。

- ・ 大項目Ⅱにおいて、教育研究の実質面で目標達成していると認められるのに、マニュアルが完成に至らなかった、人の補充ができなかったという部分があったために、大項目Ⅱの評価がBとなってしまったのは残念。
- ・ 総合評価の「今後の着実な業務の推進とその成果に期待する」という文章には、評価委員会の評価がプロセス評価で終わるのではなく、プロセスの成果の検証も行っていくという意味が込められている。
- ・ 財務内容の分析について、類似大学と比較するだけでよいのか疑問がある。比較により経営効率を高めるための改善の手法が見えてくるということもあると思うが、どこに予算を配分し、ウェイトを付けて経営を行うかという基準が重要なのであって、大学がもっている独自の基準を公表して、一般から理解を得て、その数値が改善されていくというのが経営というものだと思う。県立広島大学はその基準が見えてこない。
- ・ 県立広島大学の運営については、県民への納得性・説得性が重視されなければならない。県民の最大公約数的な感覚は、一般的・平均的に見て県立広島大学がどうなのか、そして、真ん中あたりでいいということではなく、なるべく上の方に行ってほしいというものではないか。

- (3) 公立大学法人県立広島大学の平成19年度財務諸表に関する意見(案)について
事務局から、資料4により、法人が提出した財務諸表について事務局が行った確認内容の説明があった。合规性の遵守の観点及び表示の適正性の観点から財務諸表の確認を行い、適正な内容であったとの報告がなされた。

7 会議の資料名一覧

【配付資料】

資料1…公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務の実績に関する報告書

資料2…公立大学法人県立広島大学の平成19事業年度財務諸表

資料3…平成19事業年度公立大学法人県立広島大学業務の実績に関する評価結果
(原案)

資料4…財務諸表の承認に係る事務局における確認について

【参考資料】

参考資料1…公立大学法人県立広島大学の平成19年度業務実績報告附属資料

参考資料2…平成19年度公立大学法人県立広島大学関連記事